



国際化推進室ニュースレター No8



—新着情報—

◆ 姉妹大学との交換留学生（受入・派遣：後期分）の紹介

(受入)

大学	学生	学部	期間
ビショップス大学	Dominique Daneau-Pelletier	国際文化	H20.10～ H21.8
	Marc Andre Mcperson		
	Elliott Verrault		
センター大学	Audrey Diana McBride	国際文化	H20.10～ H21.1
	Samuel David Sanders, III		
	Bethany Renee Neal		
	Emily Jane Deane		
ナバラ州立大学	LJUBIMOV Roman	生活科学 環境デザイン	H20.10～ H21.9
	Petri Hiltula	生活科学	H20.10～ H21.3
ラップランド大学	Tanja Severikangas	環境デザイン	
曲阜師範大学	申 福順	国際文化	H20.10～ H21.9

(派遣)

大学	学生	学部	期間
ビショップス大学	福富 菜月	国際文化 4年	H20.9～ H21.4
センター大学	潮田 紗希子	生活科学 環境デザイン 4年	H20.9～ H21.5
	南 裕子	国際文化 4年	
	梅田 詳子	国際文化 4年	
ナバラ州立大学	田中 沙織	国際文化 4年	H20.9～ H21.6
	伊敷 江莉果	国際文化 2年	
	原 このみ	国際文化 3年	
ラップランド大学	宮田 弓子	国際文化 4年	H20.9～ H21.5
	鈴木 沙依	生活科学 環境デザイン 4年	
	菅原 匠	生活科学 環境デザイン 4年	

◆ 韓国・慶南大学校の朴総長来学&江里学長の慶南大学訪問

5月12日(月)に、韓国・慶南大学校の朴総長と李図書館長が本学を訪問されました。約10年ぶりの2回目の訪問となります。江里学長との学長懇談会が開催され、特に図書館の交流や大学院レベルでの共同研究等に焦点を当てた今後の相互交流について意見交換が行われました。慶南大学から本学に交換留学中のソン・ウンジンさんとカン・ヒョンウクさんは、自分の大学では会える機会のない朴総長との面会に緊張気味で昼食会に臨んでいました。本学からは9月1日(月)・2日(火)に江里学長、市村図書館長、図書館の町田主査等が慶南大学校を訪問する予定です。



◆ 江里学長がアメリカ・センター大学、カナダ・ビショップス大学を訪問

9月22日(月)から約1週間の予定で、江里学長が北アメリカの2つの姉妹大学を訪問します。両大学からは、過去に副学長(国際交流担当)が来学した折、記念講演や懇談会などが開催されましたが、本学からの学術訪問団の派遣は初めてです。夏期海外語学研修(英語)や交換留学、日本語教育TAの派遣など、これまでの交流をもとに、今後の交流の方向性について協議がなされる予定です。

—報告—

◆ 中国・四川省大地震救援金の御礼

留学生会会長 李 波二 (リ ハニ)
(国際文化学部 4 年生)

平成20 年5 月12 日に中国・四川省で発生した大地震により、多くの人びとが命を落としました。被災した方々の生活再建のためにできる限りの支援と協力をすべきであると思い、私たち中国人留学生と大学院有志は、大学の協力で、5 月20 日から6 月20 日まで救援募金を実施することしました。実施方法として、中国人留学生と大学院有志は学内において昼食時などに募金箱を持って協力を呼びかけることにしました。

6 月21 日に、私は大学の代表として救援金総額 203,000 円 を在福岡中国領事館に送金しました。その後、福岡中国領事館から感謝の手紙が届きました。募金活動をやるととても大変でしたが、皆さまの支援や協力のおかげで、何とか成功しました。すこしでも被災した人々に役に立ったらいいなと思いました。私は留学生会の会長として、みんなの気持ちを代表し、大学の先生たちや日本人大学生にとっても感謝しています。本当にありがとうございました。そして、募金活動をした中国人留学生や大学院有志の皆さん、ご協力ありがとうございました。

◆ 青島フォーラム

6 月4 日 (水) に、姉妹大学である中国・青島大学でフォーラムが開催され、田村洋教授と水谷由美子教授が出席しました。青島大学のデザイン学科が毎年開催している卒業展覧会において、ファッションショーに参加する招待を受けたものです。作品の制作、モデルやスタイリング等を受け持つ学生たちも同行しました。作品やショーの完成度に対する高い評価を受け、今後の交流についても意見交換がなされました。



◆ ホームビジットを体験

交換留学生 (曲阜師範大学) 孫 作文
(財) 山口県国際交流協会によびかけで、ホームビジットに参加しました。これは、留学生を日本の家庭に招き、気軽に国際交流をするという事業だそうです。6 月7 日 (土) に協会ですホストファミリーと初めて会いました。30 歳くらいのご夫婦で、湯田温泉の近くにお家がありました。ご主人は旅行会社に勤めていて中国語が話せ、奥さんも以前は同じ旅行会社に勤めており英語が話せました。先日は、2回目のホームビジットがあり、広島 (宮島) や岩国 (錦帯橋) に連れて行ってくださいました。

ホームビジットに参加して、日本のお兄さん、お姉さんができたという感じがしています。すごく優しくしてくれて、感動しています。日本語と中国語で話ができ、勉強にもなりました。もっと交流できるように、日本語を上達させたいと思っています。



◆ 宮野小学校で教員対象の「英語で茶話会」

交換留学生 (ビショップス大学)
マケンジー・ブリジット

私はアメリカのバーモント州バーリントン市でそだちました。カナダから近いので、ビショップス大学というカナダの大学に通っています。そこで外国語と美術を勉強しています。外国語はスペイン語とフランス語と、もちろん日本語です。どこに交換留学するか悩んだ後、日本に決めてうれしいです。四月から弓道部に入りました。新しい友達と日本語を話して、弓道も上手になりたいと思います。宮野小学校からたのまれ、小学校の先生と英会話をする会に出ています。「英語で茶話会」というのが会の名前です。小学校でも英語を教えるようになるので、先生たちは英語を話す自信をつけたいと思っています。県大でも英語の授業でTAをしています。

◆交換留学生の帰国報告①

・センター大学（アメリカ）

国際文化学部：大野彩、虻川由里佳、洪美律

私たち3人は2007年8月から2008年5月まで、アメリカのケンタッキー州にあるセンター大学に交換留学に行きました。大学ではHumanitiesという文学と歴史を通して西洋の価値観を学ぶ授業をはじめ、初級スペイン語や文化人類学、教育、経済学、音楽、ジェンダーなどの授業を受講しました。センター大学はリベラル・アーツという教育制度が特徴的で、日本で言う学部という概念はなく、様々な専門分野において興味のある専攻を自由に組み合わせることで広く深く学ぶことができます。また、授業のレベルは新生向けから上級生向けのものがあり、私たちの場合はまず前期で理解しやすい授業を受講して、後期で徐々に高いレベルの授業に挑戦するというものでした。この大学には英語を第二言語とする学生への特別なサポートがなく、私たちは一般の現地学生と同じ扱いで授業を受けました。この留学プログラムのハードな面もありますが、良い面でもあります。直接アメリカの大学教育を受けることによって、日本の教育制度と比較して異なる良い点をたくさん見つけることができました。例えば、アメリカの学生は授業に積極的で、討論を重視します。そして課題も多く、多くの学生が図書館で毎晩予習をしています。私たちも彼らの姿に刺激を受け、毎日授業についていこうと、時には他の国からの留学生と助け合いながら一生懸命勉強しました。

私たちは全寮制の2人部屋に滞在し、現地学生のルームメイトと1年間を過ごしました。ケンタッキーの気候は通年では山口と大差はありませんが、1日の温度差が激しく、また冷房による室内外の温度差もあるので、健康管理には常に気をつけました。全寮制ということもあり学生の健康を管理するためにキャンパスには立派なプールやジム、スタジオもあり、私たちも無料でそれを利用することができます。そこで多くの学生が筋肉強化に励んでいる姿がアメリカらしく、とても印象的でした。

長期休暇にはそれぞれ一人旅にも挑戦し、ニューヨーク、ワシントンDC、ロサンゼルス、プエルトリコ、テキサス、ボストンなどを旅行して、ケンタッキーとは違ったアメリカの雰囲気を楽しみました。これらのような大都市とは異なり、ケンタッキーは人種の多様性は少なく、アジア人の割合はわずかなものでした。また、キャンパスにはISAという

留学生団体があり、私たちは現地の留学生や多様なバックグラウンドを持つ現地学生らと共に討論やパーティーを通じて異文化交流を楽しみました。ここでの経験を通して感じたことは、外国人に自分の国や文化について説明することがいかに難しく、自身の知識が不十分だったかということでした。これは留学前に県大の授業を通じて培った知識は、ここでの生活に大いに影響しているということです。

その他のユニークな思い出としては、日本語クラブでの和食パーティー、牧場をもつ家庭でのホームステイ、バージニア州でのキャンプ、有名チームのバスケット観戦、教会での聖歌隊参加、チアリーディング、ハロウィンでのスリラーダンス、地元小中学校での英語の教育実習、イスラム放送局（ワシントンDC）へのフィールドトリップなどがありました。

最後に、この留学を目指す皆さんに一言。このプログラムに参加するにはTOEFLでの一定のスコアをクリアするというハードルがありますが、この試験を受験することにより英文の書き方や学術的な語彙力の強化につながるのので、現地に着いてからの学習に役立ちます。諦めず、最後まで頑張ってくださいね。センター大学でのHAPPYで充実した学生生活があなたを待っています。



◆交換留学生の帰国報告②

・ビショップス大学（カナダ）

国際文化学部 久保美和

私は2007年8月から2009年5月まで、山口県立大学姉妹提携校にあるカナダ・ケベック州のビショップス大学へ、交換留学生として派遣されました。ビショップス大学はケベック州というフランス語圏にある英語大学です。学内では英語とフランス語に、そして学外ではフランス語に親しむことができます。

私が日本を出発したのは8月29日、カナダでの初日はモントリオールにあるユースホステルに宿

泊しました。ビショップス大学には、留学生歓迎プログラムが授業登録・開始の約3日前に組まれており、寮の部屋や学内案内、周辺観光などがその一部です。指定されたユースホステルへのお迎えサービスもあるので、申し込みを事前にすればそれも利用できます。ビショップス大学でのプログラム期間は、秋期と冬期の2期です。秋期授業開始は9月初めで、年末に試験があり、試験が終了した生徒は冬休みが始まります。冬期は年始を少し過ぎた頃に開始し、4月末に試験開始、冬期終了と同時に留学プログラムも終了です。ケベック州でのアクティビティーは、BUISA という学生グループが色々と安価でツアーを企画してくれるので、そこで大いに楽しむことができます。また、連休・長期休みは旅行のチャンスです。特に長期休みはおよそ1カ月弱あり、かつ寮から退出しなければならないので、早めに予定を立てて満喫して下さい。ちなみに、私は冬休みにはイギリスの友人のお宅に、プログラム終了後はビショップスで知り合った友人のアパートに滞在させて頂きました。

ビショップス大学での8ヶ月は、大半を雪とともに過ごすこととなります。まず、木々の葉の色の変化を楽しんだ後、長い長い冬がやってきます。冬には大量に雪が積もります。私は雪にあまり馴染みがなかったので、すべてが新鮮でした。一面が雪に覆われた景色はとてもきれいで、雪化粧された木々や校舎がきらきらと日の光に反射する様子が今でも思い出されます。そして雪解けの季節が訪れ、ふかふかの芝生が顔を出してきます。その頃になると気温もぐっと暖くなり、学生たちは芝生の上に寝転んで日光浴をしたり、フリスビーやキャッチボールをしたり、ギターを外で演奏したりと、春の到来を体いっぱい受け止めます。

ビショップス大学にはESL (English Second Language) という英語を母語としない生徒たちのために開講された授業があるので、徐々に、そして確実に英語に慣れ親しんでいくことが可能です。また、語学系の授業も、英語以外にスペイン語、イタリア語、フランス語、ラテン語、ギリシャ語などと豊富なので、言語に興味がある方は大いに楽しむことができます。そのほかにも、物理学系・生物学系・文学系・社会学系・芸術系・政治学系などと専攻も多種多様なので、県大では受講できない分野も受講することができます。また、講義の内容がわからなくなった時にはチューターを雇えるシステムや、出来上がったレポートの文法や構成をチェッ

クしてくれるライティングセンターも利用可能です。大学内の施設ですが、ジムは使い放題です。プールやサウナ、テニスコートなどがジム内外に設置されています。また、ダンスやスイミング、テコンドーなどの授業も開かれており、受講することも可能です。

留学生は基本的に寮に入ることとなります。寮には様々なタイプがあり、バスルームをシェアするのが大半です。友人とも気軽に会うことができるのも、寮の大きな利点だと思います。

約8ヶ月の留学は難しいと感じる方もいるかもしれませんが、英語力に自信がないからとあきらめてしまう方もいるかもしれません。しかし、まずは挑戦してみようという気持ち大切です。挑戦しなければ何も始まりません。異文化で生活するということは、とても意義のあることですし、きっと素晴らしい経験ができます。ぜひ、留学に対する思いが少しでもあるのなら、挑戦してみてください。



◆ 夏期海外短期語学研修・交換留学の報告会を開催します。

10月1日(水)の後期オリエンテーションの日に、報告会を開催します。14:30~16:00まで、A32教室。来年度参加を考えている方、ぜひ聞いてくださいね。



(慶南大学校で挨拶をする本学学生たち)

◆グローバル学生交流事業へのご協力ありがとうございました。

中国からの語学研修生10名、韓国からの語学研修生10名、教養科目「国際交流」履修生165名（国際文化25名、社会福祉46名、看護栄養94名）、「日本語教育実習」履修生20名、国際文化学部専門科目「地域実習」履修生2名の、計207名が参加してのプログラムとなりました。また、指導等に当たってくださった教職員数は約20名にのぼります。

以下、教養科目「国際交流」履修生のなかから、各グループリーダーの報告をご紹介します。

①「出迎え、萩・秋吉訪問」のグループ

看護栄養学部栄養学科2年 江田 亜友美

私たちは2グループに分かれて下関港（中国）と博多港（韓国）の出迎えに行きました。その後、留学生と1対1でペアを組んで史跡を見学しました。下関グループは海峡ゆめタワー・赤間神宮・長府庭園を、博多グループは「博多町家」ふるさと館・櫛田神社を見て回りました。留学生のみなさんは日本語がとても上手く、どのペアも楽しそうに交流していました。2日目は1日目とは別の留学生とペアを組み、秋芳洞・松陰神社・城下町を県学しました。鍾乳洞や城下町はほとんどの留学生には珍しく、興味深かったようです。2日間とも天候に恵まれず残念でしたが、交流はみんな楽しそうにおこなっていました。しかし、日本のことや観光地の事を詳しく説明できない部分があり、反省すべき点であると感じました。



②「串・十種ガ峰グループ」

国際文化学部国際文化学科2年 青柳満人

私たちの交流ではまず徳地の串交流センターにて地域の方とグローバルの学生、日本の学生で日本料理を中心に作りました。できた料理を見て留学生はとても喜んでおり、美味しそうに食べていました。地域の方は一対一の韓国語・中国語講座をととても楽

しみにしていたようで、時間を一杯使って会話をしていました。その後行われた徳地の和紙作りではさまざまな色染めを楽しんでいました。十種ヶ峰少年自然の家では研修を通して日本、韓国、中国の学生は交流を深めていました。特に、バーベキューを初めて体験する留学生もおり、目的に向かってグループで作業をするのでとても良かったと思います。研修の合間にも各自国語を教えあったりしたり、お互いの文化を教えあうことができました。



③「広島・宮島見学、見送りグループ」

国際文化学部国際文化学科2年 杉野 由可子

私たちは広島の平和記念公園と宮島を見学しました。平和学習は事前に2日、留学生たちと学習会をもって準備しました。平和記念公園では原爆資料館、平和の灯、原爆の子の像、原爆ドームをまわり、原爆の子の像には留学生たちと一緒に折った折り鶴を捧げました。宮島では最初に鹿に出会いました。留学生たちは珍しそうに鹿の写真を撮ったり触ったりしていました。厳島神社では朱色の廻廊を歩きながら平舞台や高舞台などを見て回りました。19日の見送りでは下関と福岡に見送りに行き、バスの中で留学生たちとたくさん話すことができました。この国際交流の授業では普段話すことのない中国・韓国の人たちと話すことができ、とても有意義な時間になったと思います。



④「歓迎パーティーとスピーチコンテストのグループ」

看護栄養学部看護学科1年 真倉 千明

歓迎パーティーは予想以上の参加者が来てくださり、とても盛り上がりました。日本に来て間もなく緊張している留学生にとっては、緊張がほぐれる良いきっかけになったのではないかと思います。心配していた言語も、留学生がすごく日本語が上手だったので助けられました。それぞれ出し物をしてくれたり、話が盛り上がりすぎていて、パーティーを終えて帰るのが少し名残惜しそうなほどでした。スピーチコンテストはスピーチ時間やプログラムなどの詳しい内容を留学生に伝えるのが遅かったため、戸惑わせてしまった事が申し訳なかったです。当日はそれぞれ日本に対する思い出やイメージを堂々と流暢な日本語で話されていて、とても素晴らしいスピーチを聞くことができました。この国際交流で得た経験を生かして、これからもさまざまな国の人と交流したいと思います。



⑤「市内案内と送迎パーティのグループ」

看護栄養学部看護学科2年 大下 可那子

初めは言葉の壁があるかなと思っていましたが、そんなものは全くなく、短い時間でもたくさんのお話ができました。留学生の人たちは、いろんな物の名前やその意味などを訊ねてきたりと、ただ与えられるばかりの学習ではなく、自らが進んで学習していました。その熱心な姿をみて、自分も見習わなければならないと思いました。短い時間の交流だったけど、私にはとても心に深く残るいい思い出となりました。これからの授業の中で他国の人と交流できるようなものはないけど、普段の生活では得ることのできない知識などが習得でき、また友達ができる異文化交流をこれから自ら進んで行いたいと思いました。



⑥「スポーツ交流と各講義の聴講グループ」

社会福祉学部社会福祉学科 1年 梶山 朋花

スポーツ交流は、自己紹介ゲーム・ラジオ体操・三色鬼・ドッジボールを行った。まず自己紹介ゲームでは、相手の名前を覚えることに焦点を当てた。次のラジオ体操は、日本独特のものであったが、中国・韓国の学生の中にはラジオ体操をすでに知っている学生もいた。わからないところはたがいに教え合ったり、見よう見まねで行ったりと楽しくできた。最後の三色鬼・ドッジボールは、言葉を使用しなくとも自分の感情や伝えたいことを表現したり、身振り手振りで伝えられるということを実感した遊びであった。

翌日は一緒に昼食をとり、各講義を聴きに行った。昼食時からとても会話が弾み、楽しく交流ができた。講義は内容が難しかったため、あまり授業には集中せず、コミュニケーションをとりあった。他国の知らなかった面を知ることができ、また、自国を振り返るよい機会にもなった。「日本について学びたい」という意欲が非常に感じられ、中国・韓国の学生はたくさんの質問を私たちになげかけてくれたことが印象的だった。



⑦看護学科交流グループ

看護栄養学部看護学科 2年 小柳聖子

7月9日に山口県立大学看護学部棟にて韓国慶南大学校、中国曲阜師範大学の留学生20名と山口県立大学看護学生19名(2年生7名、1年生12名)で看護学科交流を行いました。

交流内容はAEDを用いた心肺蘇生法の模擬授業と看護学部棟の実習室案内でした。

AED模擬授業を行ったあと、留学生にAEDの使用方法と心肺蘇生法を体験していただきました。模擬授業の時から真剣に話を聞いて下さり、体験されるように促したところ、みなさん積極的に体験されました。

実習室案内では、思いのほか留学生のみなさんが実習室にある機械や器具に興味を示され、1つ1つの実習室の説明に時間がかかってしまったため、終了予定時間が30分近く遅くなってしまうアクシデントがありました。

交流後、留学生の方にお話を聞いたところ、「楽しくて貴重な体験をさせてもらった。ありがとう。」との言葉をいただきました。私たちは留学生のみなさんと交流を持つことで様々な刺激をいただいたし、留学生の皆さんにも楽しんでいただけたため、無事に看護学科交流を成功させることができたと思います。



⑧「社会福祉学部交流グループ」

社会福祉学部社会福祉学科 2年 黒木麻莉恵

社会福祉学部交流は7月10日に実施し、12:50～14:20までをワークショップ、14:30～16:00まで手話クイズ・シッティングバレーを行った。ワークショップとは、頭や言葉だけでなく「体験」を重視した参加体験型のグループ学習で、今回は少人数になり、「福祉に対するイメージ」というテーマで話し合った。また、シッティングバレーとは、座って行うバレーボールで、障害者スポーツの1つだ。

短い時間ではあったが、皆楽しそうで、終わる頃には打ち解けていた。この交流を通し、中国・韓国の学生に楽しみながら福祉に触れてもらった事を嬉しく思うとともに、私たちも、言葉ではなく「伝えたい」という姿勢が大切なのだと感じ取る事ができた。



⑨「栄養学科交流グループ」

看護栄養学部看護学科 2年 山本 倫也

私たちの国際交流では、留学生の人達に日本の伝統的なお菓子について知ってもらうため、「かぼちゃの茶巾絞り」と「わらび餅」を一緒に作りました。かぼちゃにした理由は、夏の旬の野菜で色合いがきれいだからです。わらび餅は夏らしく、涼しげな和菓子にしたかったからです。お菓子に合う渋い煎茶を煎れました。また、かぼちゃとお茶は、山口県産の「くりまさる」と「小野茶」を使い、地産地消も考えました。

この交流によって、留学生の人達に和菓子とお茶について知ってもらえたと思います。また、一緒に調理することで、会話も弾み、お互いの文化についても知ることができたと思います。



**「日本文化親しむ」
中韓留学生が抱負
県立大で3週間交流**

山口市校島の県立大と学術交流協定を結ぶ中国と韓国の大学からの短期留学生が三十日、県立大を訪れ、歓迎式があった。三週間の日程で、学生との交流を通じて日本語や日本文化を学ぶという。

訪れたのは、中国山東省の曲阜師範大学から二、三年生十人と、韓国慶尚南道馬山市の慶南大学から二、三年十人。県立大の江里健輔学長が「日本の文化を目で見て理解する絶好の機会。美しい自然に囲まれた山口で有意義に過ごして



ほしい」と歓迎した。留学生は、日本語で一人一人自己紹介。県立大の学生ともすぐに打ち解け、一緒に食事をして交流を深めた。

日本語を専攻している曲阜師範大学三年生の曹真さん(三三)は「茶道や華道が楽しみ。生きた日本語に触れて、文化の理解を深めたい」と日本語で話した。

県立大が二〇〇〇年度から取り組む学生交流推進事業の一環。留学生は、下関中等教育学校で授業を見学したり、和紙作りを体験するなどして日本文化に親しむという。

日本語で自己紹介する留学生たち

伝統遊びなどで交流
下関中等教育学校 中韓の大学生が訪問

六月末から県内に滞在している中国・山東省の曲阜師範大学と韓国・慶尚南道の慶南大学の学生二十人が七日、彦島老町の下関中等教育学校(永留理文校長、七百二人)を訪れ、自国の文化や伝統的な遊びを紹介した。

両大と学術協定を結ぶ県立大学などが進めるグローバル学生交流の一環。対象は、東アジア文化入門とし

慶南大の学生たちは、生徒たちと織い事をしていた夕の短冊を母ササ竹に飾り付け、韓国のおそろく、ユン

慶南大の学生と韓国のすごろく、ユンノリを楽しむ生徒たち



ノリやお手まに似たユンギという遊びを紹介し、一緒に楽しんだ。